

KMT DataDiscovery

ケーエムティデータディスカバリー

誰でも、カンタン・自在に
ビッグデータを素速く活用。
生きた情報が業務力を強化する
BIデータ活用ソリューション。

ここ数年、企業に蓄積される情報は年々増加しています。これらのデータを用いてビジネスの活性化を図るため、BIツールや統計分析ツールなどの活用が叫ばれていますがBIツール活用には課題も多く、蓄積されたデータが十分に活用されていません。

KMT 研究所では、ビジネスデータに隠れていた事実を発見し、企業のデータを経営者から現場まで幅広く活用することを可能とし、企業活動の活性化、効率化、売上向上、競争力を高めるソリューション、KMT DataDiscovery を提案いたします。

今までの BI ツールと KMT DataDiscovery との比較

今までの BI ツール

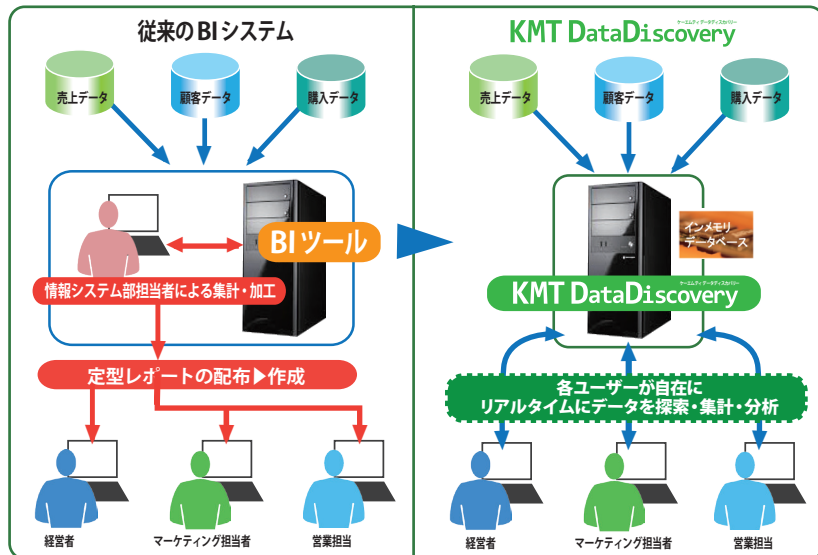
- ・ 全社規模のプロジェクト
- ・ 高機能
- ・ 高価格
- ・ 専門家のためのツール
- ・ 専門知識が必要
- ・ 長時間のトレーニング
- ・ ツールの選択に時間をかける
- ・ 基幹システムからのデータ準備に工数がかかる
- ・ 綿密な導入コンサルティング
- ・ BI ツールで得た効果が費やした時間とお金と人に値するものか、ROI の特定ができない

KMT DataDiscovery

- ・ 担当者が扱える
- ・ 必要な機能を手軽に
- ・ 比較的安価
- ・ 誰でも使える
- ・ 専門知識を必要としない
- ・ 基本的な製品トレーニングのみ
- ・ 素早く導入して素早く効果を上げる
- ・ 既存データをそのまま使う
- ・ 綿密なコンサルティング不要
- ・ 担当者が実感できる効果を上げる

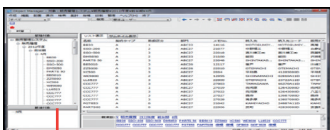
	キーマン	着眼点	アプローチ	ユーザー インターフェース	利用シーン	社内展開
従来の BI ツール	IT 部門	・ データと業務 ・ 一貫性を重視	・ データ中心のアプローチ ・ 既存データストアの活用 ・ IT 部門による統制/決裁	・ レポート/グラフ ・ KPI ・ ダッシュボード	・ モニタリング ・ レポートニング	IT 部門または IT ベンダーが主導
KMT DataDiscovery	ユーザー 部門	・ 現場のニーズ ・ スピードを重視	・ 個別の課題解決を探索 ・ 専用データストアの活用 ・ ユーザー部門による決裁	・ ビジュアライ ゼーション (視覚効果)	・ 分析 ・ データの探索	ユーザー部門 が主導





集計・加工利用イメージ

例：売上製品別順

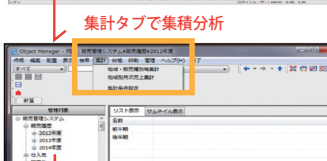


ドリルダウン分析
同一データ群を
違う切り口で分析



例：販売先別順

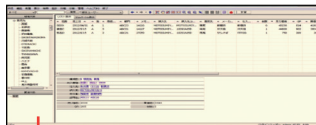
同一データ群を
違う切り口で分析



集計タブで集積分析

集計（作業設定）

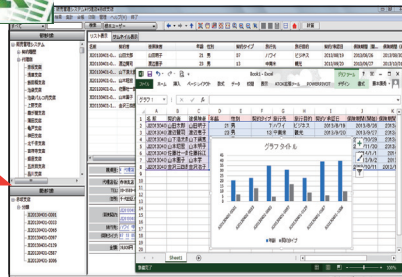
例：売上日付順



ドリルダウン分析
各項目での昇降順分析



エクセルでのグラフ化



KMT DataDiscovery の特長

写真や見積書など関連ファイルを一元化

■関連情報の管理（汎用キャビネット）

KMT DataDiscoveryは、データ分析のツールとしてのみならず、関連する資料の保管する機能により、納入した機器の契約書、見積書、仕様書や写真など、あらゆるものを関連付けて保管することができます。

■優位な機能拡張性

汎用開発プラットフォームである Visual Center1をベースにしていますので、機能拡張が容易にできます。例えば、次のものを計画中です。

- ▶キャンペーンの効果を見る機能（同時に企画書等も一緒に管理）
- ▶取扱件数の拡大（500万件以上）

●独自のテクノロジーによる発見のサポート

独自のテクノロジーにより関連するデータが有機的に連結しています。IT 部門に頼らなくてもユーザ自身が分析軸を決めることができます。また、ユーザ自身が分析をする際に、期待した結果だけでなく、予想外の知見や次の問いにつながるヒントを提供することができます。

●ビジュアライゼーションの進化

見栄えの良いチャートが作成できるだけでなく、複合的なデータを1つのチャートで表現する、地図上にデータをレイヤー形式でプロットできるなど、視認性が非常に高く、課題や問題点の発見スピードを高めます。

●大量データに対する高速性の確保

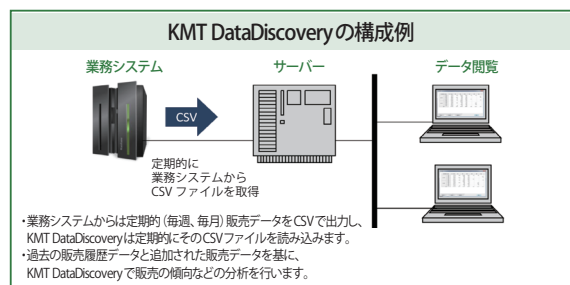
インメモリ技術やデータストア・アーキテクチャの進化により、数百万件から数千万件レベルのデータを、エントリー・スペックのサーバで高速に処理することが可能です。

●だれでもカンタン操作

専門的なスキルを必要とせず、現場の人が直感的に操作可能なユーザーインターフェース。項目の追加・変更がストレスなく対話的に素早く行え、現場での柔軟な変更が可能。また、対象とするデータには統計的な前処理は不要で、Excel や CSV ファイル形式で業務システムからのデータ読み込みが可能です。

●低価格

BIツールと比較して十分の一以下の価格で導入が可能です。



主な機能	集計機能：クロス集計、カテゴリ別集計 ファイル添付：任意のファイルを添付可能 画像表示：JPEG形式ファイルは画像表示領域に表示
動作環境	Windows Vista, 7, 8, Windows Server 2008, 2012 それぞれ 32bit / 64bit 環境対応 (32bit アプリとして動作)
主な仕様	読み込めるデータ量：PCの搭載メモリ量に依存 CSV 入出力：Shift-JIS または UTF-8, 改行コード CRLF



株式会社 KMT 研究所

会社名 株式会社 KMT 研究所（英文 KMTL : Knowledge Matching Technology Lab.）

住 所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 3-27-1 三協ビル 2F TEL 0422-26-5008 FAX 0422-26-5021

<http://www.kmt-l.co.jp>